

一般社団法人 日本写真測量学会 関西支部

『第19回 若手技術者・研究者による技術研究発表会』開催報告

日本写真測量学会関西支部では、2023年9月8日（金）に『第19回 若手技術者・研究者による技術研究発表会』を大阪公立大学 I-site なんばにて開催しました。参加者は48名（うち、学生19名・一般29名）でした。本発表会は、空間情報の生成・利用・応用のあらゆる分野に携わる35歳以下の技術者・研究者の発表技術向上と研究発展に資することを目的としており、さまざま応用分野でのユニークなテーマで17件の発表と活発な質疑応答が行われました。

プログラムは、①研究に着手したばかり、あるいは研究の方向性の検討段階での発表の「萌芽的研究」（セッション1）、②実務業務内容等の報告、新技術の利用、実務を通じてこれまで経験されてきたことや法規制度等に対する論説を対象とする「研究・技術報告」（セッション2）、③論文等の執筆に向けた今後の取りまとめについての発表及び討議する「研究・討議」（セッション3,4）、の3つのグループで構成しています。今回は、タイペイにて開催されるアジアリモートセンシング会議（ACRS2023 in Taipei, 10/30-11/3）での発表予定者より、英語によるプレゼンテーションが2件ありました。

「萌芽的研究」では、まだ研究半ばの段階でありながらも、背景や目的の設定、データ処理や解析手法、結果および考察に至るまで、丁寧に分かりやすくまとめられており、今後の展望まで言及されていました。今後の研究発展を期待して、有意義なコメントをたくさんいただきました。

「研究・技術報告」では、山間地における災害現場や河川横断測量における UAV／航空機レーザ技術の作業効率化に関する事例、3D都市モデルの整備に関する空間情報技術の活用事例、簡易測量における効率的かつ高精度な GNSS 位置情報取得とその活用に関する報告がありました。会場からは多くの質問や指摘など質疑も非常に充実した時間となりました。「研究・討議」では、建設作業現場、耕作地、道路用地などの現場レベルから、都市や観光地などの地域、さらには大陸スケールにおける様々な課題に対して、空間情報技術の基礎から応用、統合的利用に至るまで、幅広い分野での発表が10件ありました。いずれも、数年間、必死に取り組んできた研究成果を多くの人に伝えたい気持ちが強く発表に現れていました。質疑では、あえて厳しい質問を投げることもあり、発表者との活発な意見交換ができました。

会の終了後、本支部役員の審査に基づいて、以下の方々に「優秀研究発表賞」と「国際学会発表奨励賞」を熊谷樹一郎支部長より授与しました。

本支部では、これからも本発表会を継続していく予定です。支部役員一同、より多くの若手技術者・研究者からの発表参加をお待ち申し上げます。

優秀研究発表賞

小林 知生（京都大学大学院）
宇田 航希（東京農工大学大学院）
研谷 朋花（京都大学大学院）
三宅 翔平（株式会社パスコ）
河野 大志（国際航業株式会社）

国際学会発表奨励賞

寺西 由夏（京都大学大学院）
床井 晴香（摂南大学大学院）



発表会場の様子